

第1回産業廃棄物最終処分場の整備に係る基本方針検討委員会概要

- 1 日 時：平成24年9月3日（月） 13：30～15：40
- 2 場 所：盛岡地区合同庁舎8階講堂A
- 3 出席者：（委員）中澤廣、笹尾敏明、長岡秀征、山本博、中沢正博、門脇生男
（事務局）工藤部長（挨拶のみ）、谷藤技監、津軽石特命参事、大泉総括課長、
佐々木特命課長、門脇主査、大里技師

4 委員会概要

(1) 環境生活部長あいさつ

(2) 委員長、副委員長互選

事務局案を求める声があり、事務局から委員長に中澤廣委員、副委員長に門脇生男委員を提案し、全会一致で承認された。

(3) 質疑等概要

委員＞民間の動向を待たず、この時点で県が関わる理由は。

回答＞民間による設置は否定しない。本県では民間事業者による計画が住民による反対運動により実現しなかった過去があり、間に合わなくなる恐れがあるため検討を開始するもの。

委員＞今後の検討の中で、廃熱利用は発電との関連を念頭において幅広く検討すべき。

委員＞用地選定について、市町村依頼とコンサル委託を並行して行っていくイメージとは。

回答＞用地に関する情報を一番有しているのは市町村であると認識しており依頼するものであるが、必ずしも適切な場所が推薦される保証がない。コンサルにも委託して地形的に良好な箇所を調査し、その情報を市町村に提供することにより時間的な無駄が生じないようにしたい。

委員＞たたき台について。埋立容量は様々な要素を考慮すると目安にしかないのではないかと考えられ、基本的には産業廃棄物を対象として、必要に応じて周辺市町村の一般廃棄物も考えていけばよい。

運営主体については、PFIは様々な手法があるので、この委員会ではどこまで決めるのか考えを確認したい。

その他の付帯施設は処分場とは別の施設であり、要否について別途整理する必要がある。

回答＞PFIについては、今後、調査をしていく必要がある。調査を行う場合、盛り込む要素の取捨選択をしていく必要があるので、この委員会にて様々な意見を伺いたい。

委員＞候補地の選定は放射能関係の問題もあるので、これまで以上に地元理解を得ることが困難だと考えられ、民間事業者による設置は相当の企画力や技術力が必要であり、県の関与がなければ間に合わないと考える。現状で民間による計画はあるか。

震災に関連して漁網等の処分について困っていると聞く。農林水産系の廃棄物は一般廃棄物として回っているものもあり、動向を確認したい。

回答＞現状では軽米町の1件のみである。

漁網の処理には相当の能力を有した破砕機が必要。今後、漁網等の処理を行うためには、破砕施設の設置が必要になる。貝殻は一般廃棄物であるが、産廃として排出されるケースがある。排出者が費用負担できるかが課題。農林系ではフィルム以外の排出はほぼない。有機汚泥等はリサイクルされている。規模と種類は後の、より具体的な検討で考えていく。

委員＞風当たりは強く困難かもしれないが、第3セクターでなければ安定した運営にならないということか。

回答＞他県で採用しているのは安定性を重視してのこと。P F I は県の関与度は低下するが、財政的な負担が少ない。第2クリーンセンターの際の調査では第3セクターは公設公営よりもコスト高になるとの結果であった。一般廃棄物の処分場ではP F I の事例があり、次回までにさらに調査する。

委員＞災害廃棄物の処理の見通しも含めて検討していく必要はないか。

回答＞災害廃棄物は平成26年3月までに処理をする計画である。いわてクリーンセンターの処分場も活用する計画であるが、毎年発生する約4万m³の産業廃棄物への対応を念頭に、その期間も見こしつつ、次期処分場の考え方を丁寧に説明していく必要があると考えている。

委員＞次期処分場を整備するに当たり、これまでの自県内処理等の考え方について変更はあるか。

回答＞これまでと同様の考え。他県からの搬入は想定していない。

委員＞災害廃棄物の処理施設を検討するうえで、その延長として次期処分場を考えるのか。

回答＞他県では処分場の容量が豊富で処理が進んでいる側面がある。今後、有事に備えて容量を確保していく必要があるか否かについても意見を伺いたい。

委員＞容量に関しては最低限しか決められないのではないか。

委員＞いわてクリーンセンターではⅠ期とⅡ期に分かれている。適地が隣接した地形が理想か。

回答＞クリーンセンターのように下流側に幅が狭まっていく地形が理想だ。

委員＞対象廃棄物を考える場合、施設の有無により対応の可否が分かれるだけで、処分場の構造的な要件への影響まで考慮する必要があるか。

回答＞ない。幅広く受け入れることを想定しても計画はできる。

委員＞第3セクター、または、P F I を考える際、実際にできるか否か分かっているか。

回答＞今後、詳細に調査していく必要がある。

委員＞焼却施設は1施設に絞っていく考えか。

クリーンセンターが廃炉になっても県内の廃棄物の行き場は確保されるか。

回答＞第2クリーンセンターはまだ経営が安定していない。いわてクリーンセンターは老朽化が進み、焼却事業は赤字の状態である

現在、災害廃棄物の処理を行っているセメント会社に余裕が生じるので、確保されと考えている。

委員＞今日の委員会では出された意見をまとめ、調査検討して次の委員会で提案するという流れか。

回答＞今日の意見はまとめ、一旦、委員各位に内容の確認を得る。その後、庁内検討や関係機関ヒアリングを経、その結果をまとめ、次の検討内容に反映させていく。

委員＞可能であれば、排出事業者による団体だけでなく、代表的なN P O等にも知ってもらうように工夫してもらいたい。

回答＞ご紹介等いただければ、広く説明していきたい。